



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

# しらこぼと

## 2008.6

No. 290

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



# クマタカ探鳥記

長嶋宏之（蓮田市）

タカが好きになったのはいつの頃からだろうか。初めて見たタカは何だったのか今となっては定かではない。しかし、タカの飛翔を見ると何故か血が踊るのである。暫くタカを見ないでいると無性に見たくなるから不思議だ。そんなある日、「クマタカの谷」へ出かけた。

## ● クマタカの谷

2月某日、前日からの降雪で現地は15cm積っているとのこと。決行か中止か迷った末、明日は晴天との予報に決行を決めた。今回の参加者は車を提供してくれるT氏、それに仲よし3人組のK子、M子、N子と私の5人だ。

「クマタカの谷」、私はクマタカが見られる溪谷をこう呼ぶ。埼玉県外のそこは、南西北の3方を山に囲まれ、東方だけが開けていて、遠く低い山並みの彼方に屋敷林らしい緑が見える。私はこの北方の斜面で数頭の猿の群れやカモシカを見たことがある。

街から外れて「クマタカの谷」への道は、谷川に沿って登る街道から始まる。狭い畑を左右に見ながら人家がまばらになる頃、右に斜面、左に沢の細く曲がりくねった林道となる。その朝、道は凍結した上に新雪が積っていた。T氏の運転するランドクルーザーはギシギシと雪を捉えて進む。前方斜面の木々の枝は昨夜の雪が重く乗って垂れていた。その雪が時おり枝から落ちて朝日に光った。

## ● 今日飛ぶ！

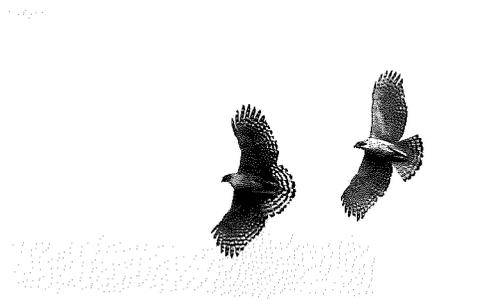
トンネルに入ろうとした時、後部座席の誰かが「タカ！」と小さく叫んだ。今回の第一声である。車から降りて指差す方を探したが見当たらない。その飛翔姿からクマタカだったようだ。「今日は飛ぶ」、私はそう確信した。車内は幸先の良い話に急に華やいだ雰囲気となった。

用意した道具で路肩の雪を除き、車を所定の位置に入れ一息ついた時、東遠方の尾根の上、青空をバックに大型のタカがゆっくりと輪を描いて飛んでいるのをN子が発見した。旋回して陽に当たったその尾羽に、はっきり

と数本の帯を確認できた。下面の鷹斑も良く見える。クマタカだ。雲をバックに暫く旋回した後、尾根の冬枯れの木の枝に降りた。スコープで確認できる距離だ。「デカイ！」。

N子はトンネル前のクマタカがずーっと気になっていて、除雪している間も目配りを怠らなかったようだ。今回、K子、M子、N子の3人を誘ったのは大成功だ。兎に角、探すのが早く正確だ。

## ● ここのつがいは姉さん女房



クマタカ（写真提供 U氏）

東方のクマタカ観察の興奮が冷めて数分後、今度は樹林の上をクマタカとおぼしきタカがこちらに向かってぐんぐん滑空してきた。先のクマタカのような。今度は近い。50m程だ。反転して鷹斑を我々に見せた後、北方尾根の上空高く飛び去った。その姿は眼下の生きものを圧してあまりにも静かだった。

暫くして、現地でクマタカの観察を続けているグループのU氏が到着した。久しぶりの再会である。U氏の説明では「ここのクマタカは尾羽に帯がはっきり見えたのなら早」とのこと。また、以前、南面の切り立った岩棚でクマタカが営巣したことや、現在、ここのつがいは姉さん女房で仲が良い、今年は子育て

てを期待したいなどの説明をしてくれた。言葉の随所から、この「クマタカの谷」がいつまでもクマタカの安住の地であることを願っている様子が熱く伝わってきた。

クマタカが頻繁に飛翔する時間の前に現着する努力が実り、今回もクマタカの飛翔を見ることができた。この至福の時間を過ごせたことを同行した皆と喜びあい、U氏に別れを告げて「クマタカの谷」を後にした。

## ● 帰りの車中で

クマタカの話に加え、3m近くまで来たイワヒバリやカヤクグリ、手が届きそうだった枝先のウソのつがい、真っ青だったルリビタキ、雪の上の真っ赤なベニマシコなどの話題で大いに盛り上がった。



イワヒバリ(上)とカヤクグリ(下) (長嶋)

## <観察記録>

○: 観察した ●: 同行者が観察した  
V: 声を聞いた ♂: 雄 ♀: 雌  
Fe: 採餌 Fg: 滑空 F: 飛行  
R: 枝などに止まっていた  
多: 沢山いた 3+: 3羽以上

No.	区	観察種	性・数・時間・行動等
1	●	クマタカ(イ)	? 09:20 Fg 車内
	○	クマタカ(ロ)	♀ 10:10 Fg R
	○	クマタカ(ハ)	♀ 10:40 Fg
2	○	トビ	8 Fg 車内
3	●	ハイタカ?	1 Fg 車内
4	○	ノスリ	2 R 車内
5	○	アカゲラ	1 V
6	○	ヒヨドリ	多 F R
			V
7	○	イワヒバリ	5+ Fe F
			R
8	○	カヤクグリ	2 Fe F
			R
9	○	ルリビタキ	♂ Fe F
10	○	ジョウビタキ	♂ Fe F
11	○	シジュウカラ	3+ F R
			V
12	○	ホオジロ	多 Fe F R
			V
13	○	カシラダカ	2+ Fe F
			R
14	○	ベニマシコ	♂1 V Fe
			♀1 R
15	○	ウソ	♂1 Fe R
			♀1
16	○	カケス	3 V F
17	○	ハシブトガラ ス	4+ V R
			F

## 「シラコバトを見た」情報を待っています

郵送…〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4-26-8-107 日本野鳥の会埼玉県支部 研究部宛

FAX…048-825-0460 日本野鳥の会埼玉県支部 研究部宛

メール… 普及部 橋口宛 (アドレスの0は数字です)

…toridayori@hotmail.com 野鳥情報 編集部宛

## 干潟の交通事故と野次馬

杉本秀樹（習志野市）

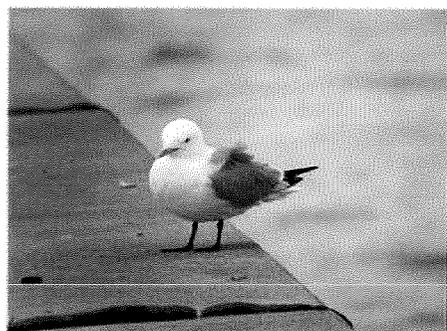
昨年の5月、谷津干潟探鳥会が終了した午後1時過ぎ頃、よりによって、オオメダイチドリが2枚貝に足をはさまれて飛べなくなっていた。ホンビノスガイという外来種の貝で4cmほどだが、大きくなると15cmくらいにもなる。谷津干潟でも増えていて、滯すじではたくさん生息している。これまでもセイタカシギ、ヒドリガモなどの犠牲者を見かけた。鳥にとっては交通事故に等しい。

飛べなくなったオオメダイチドリを今度はウミネコが襲いだした。突っついたり引っぱったり、そのたびにオオメダイチドリは逃げ回る。すると不思議なことに、キョウジョシギが20羽以上、キアシシギが5、6羽、シロチドリが2羽、そのオオメダイチドリの周りに集まってきて、「キュイキュイ、ピーピー」と騒ぎ立て始めた。ウミネコが追いかけ、オオメダイチドリが逃げると集まってきた鳥たちの輪も移動して大変な騒ぎである。

しばらくして、ウミネコはあきらめたのか飛び去ってしまっ、鳥たちの集団もバラバラになっていった。

この事件から推察するに、以下のことが確かであろう。

- ・ 鳥たちは他の鳥の災難に対して無関心で



ミツブシカモメの成鳥。夏羽がとても綺麗でした。千葉県銚子で。

小林ますみ（所沢市）

はない。

- ・ 複数の種類の鳥が集まって強い鳥に向かっていく。

他の鳥に降りかかる災難は、自分にも降りかかるかもしれない。このことを鳥たちは本能的に知っているのかもしれない。

騒ぎ立てた罵声も、きっと「やめろよ、やめろよ」という意味だったのだらうと思っている。

20年以上も谷津干潟で鳥を見ていて、こんな光景は初めてだった。

## 久しぶり

長野誠治（さいたま市）



さいたま市岩槻区城北大橋上流、水管橋たもとの左岸に、シラコバトが2羽。繁殖のためか、盛んに鳴いていました。

シラコバトを見るのは、本当に久しぶりです。調査の日も見られるといいのですが……。

## 短歌一首投稿します

中川正夫

駄作で恐縮ですが、余白がありましたら載せてください。

魂極る命最長日本たれど  
余命長短元気まほしけれ

※「魂極る(たまきはる)」は「命」の枕詞です。



## 野鳥情報

**川口市西新井宿** ◇1月1日、アオゲラ1羽、久しぶりに当地にて観察。正月から縁起がいい。2月23日、クイタダキ2羽、当地にて初観察。メジロの群れの中に混じっていた。デジスコで撮ろうと思ったが、動きが早すぎて1枚も撮れなかった。3月1日、トラツグミ1羽、こちらも当地初観察。藪の中でごそごそ餌を探していたため、全身を見ることは出来なかった(須崎聡)。

**川口市差間** ◇3月6日午前10時~11時30分、久しぶりに東見沼用水側アシ原で探鳥。ノビタキ1羽がジョウビタキのように餌をしていますが、ジョウビタキ♀にじゃまされ証拠写真で終わりました、残念。ノビタキを春の渡り時に見たのは初めてのことで感動しました。アオジ、ホオジロ、シジュウカラ、ツグミ、シメ、ジョウビタキ♂♀は目立ちましたが、カシラダカは少なく、オオジュリンは全く見えなかった。ノビタキの近くでカワセミ♀を見て帰途についた(大塚操)。

**菖蒲町小林** ◇2月8日、ニューナイスズメ100羽±、ミヤマガラス450羽±、コクマルガラス淡色型7羽、中間型45羽、黒色型15羽(長嶋宏之)。

**菖蒲町北緯36.05東経139.60地点** ◇2月28日、ミヤマガラス200羽±(長嶋宏之)。

**菖蒲町北緯36.06東経130.58地点** ◇2月28日、ニューナイスズメ20羽±、ミヤマガラス200羽±、コクマルガラス中間型1羽、暗色型5羽(長嶋宏之)。

**久喜市久喜菖蒲公園** ◇2月10日、トモエガモ♂3羽♀2羽、ミコアイサ♀1羽、ヨシガモ♂4羽。オオタカ1羽が沼のカモをハンティングしたが失敗。ビンズイ3羽、クイタダキ2羽。ミヤマガラス200羽±がカラス柱を作った(長嶋宏之)。

**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇2月10日、ルリビタキ♂1羽。ブルーのきれいな個体だった(藤原寛治)。◇3月16日、上空をサシバラしき鳥が遠く飛翔。ウグイスのさえずり。頭上の木でいい声でさえずるカシラダカ。元荒川でハシビロガモ♂2羽♀1羽。4月7日、キツタの実がいっぱいの小さな林はヒヨドリだらけ。でもよく探したらアカハラが混じっていた(鈴木紀雄)。

**さいたま市岩槻区大戸** ◇3月2日午後、タグリ20羽ほどの群れが冬田に休息(石川敏男)。

**さいたま市桜区大久保農耕地** ◇2月15日、B区でオオタカ若鳥1羽とノスリ1羽が10m程離れた樹間で互いに知らんぷり。A区でコミミズク2羽が舞う。カメラマン多数(鈴木紀雄)。◇3月16日、A区でオオジュリン3~5羽位。1羽は喉や頬が黒くなってきていた。ホオジロ、スズメ、カワラヒワがたくさん。コミミズク1羽とカメラマン多数はほとんど動かない。ヒバリやシジュウカラ、ホオジロのさえずりが聞こえた。帰ろうと車に乗りかけた時、足下から「ブルブルブル……」という羽音と共にずんぐりした鳥が飛んでいくのが見えた。すぐに着地したので双眼鏡で見てみると、背中が以前見たウズラの模様にとっくりで、大きさもそれらしいので、きっとウズラだったと思う(井内寛裕)。

**さいたま市南区白幡沼** ◇3月15日、ヒメアマツバメ。3月25日、ツバメ(海老原美夫)。

**さいたま市見沼区膝子** ◇3月24日、畦にホオアカ1羽(鈴木紀雄)。

**さいたま市緑区玄蕃新田** ◇3月25日、ツバメ初認(鈴木紀雄)。

**北本市北本自然観察公園** ◇2月21日、オオタカが数回現れたが、同じ個体のようだ。ハイタカ1羽。クイナ2羽、飛んで1羽を追いかけた。別の場所でもう1羽。亜種ハチジョウツグミ1羽、エナガ10羽±、ベニマシコ♂3羽♀2羽、ルリビタキ♂2羽、その他シメ、ジョウビタキ、ホオジロ、カ

シラダカ、シロハラ、アカハラなど。番外でイタチ1頭。3月6日、ルリビタキ♂1羽、ベニマシコ♂1羽♀1羽、アカハラ1羽、ミソサザイ1羽、ジョウビタキ♂1羽♀1羽、オオタカ2羽、ノスリ1羽、ホオジロは多数いたが、カシラダカは数が減った（長嶋宏之）。

**春日部市増田新田** ◇3月2日午後3時過ぎ、ウイングハットの東に隣接する谷原親水公園の枯れアシにオオジュリン1羽。3月3日午後2時頃、カワセミ1羽、水鳥の池内の木に止まっていた（石川敏男）。

**春日部市武里中野（旧中野）** ◇3月3日午後4時頃、農家M氏宅庭先ムクドリの群れと共に餌を啄むアカハラ♂1羽をしばらく観察。デジスコ写真もバッチリ数枚撮ることができた（石川敏男）。

**蓮田市黒浜東埼玉病院周辺** ◇3月6日、病院内でエナガ3羽十、ルリビタキ♀1羽、シロハラ1羽、キクイタダキ2羽。3月18日、病院内東縁で「シシシシ…」の音が林の中から聞こえる。ちょっと早い気もするが、ヤブサメと思われる。さらに奥から猛禽の「キ、キ、キ…」の声も。3月25日、病院内東縁で複雑な甘く美しいさえずり。正体がわからず悩んでいると「ジェー！」カケスだー。まだルリビタキの「ゲグゲッ」の地鳴きも聞こえた。4月1日、病院内東縁でトラツグミ、シメ、アオジ、シロハラ、カケスと冬鳥ばかり。カケスのものまねにはもうだまされない（鈴木紀雄）。



ヤマシギ(大坂幸男)

**蓮田市黒浜沼** ◇3月16日、上沼北側のアシ原からアリスイの声するも姿見られず。3月18日、上沼でコチドリ1羽。アシ原で夏羽になってきたベニマシコ♂1羽。アリスイ今日も声のみ（鈴木紀雄）。

**蓮田市伊豆島** ◇3月28日、電線にシラコバト計4羽。シメ2羽、くちばしが青灰色に。ツバメ2羽が元荒川の水面を飛ぶ（鈴木紀雄）。

**蓮田市黒浜** ◇今冬、自宅で観察できた野鳥です。カワウ、ダイサギ、ハイタカ、コジュケイ、キジバト、コゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト（長嶋宏之）。

**蓮田市城沼公園** ◇3月26日、ツバメ1羽。4月12日、ヒヨドリの群れ20羽十、北に向かう。4月16日、ヒヨドリの群れ30羽十、北に向かう。4月24日、コアジサシ3羽が採餌、何度もダイビングしていた（長嶋宏之）。

**羽生市羽生水郷公園** ◇3月9日、タシギ5羽、オオバン5羽、バン2羽、オナガガモ♂8羽♀4羽、アオサギ7羽、頭部が黒くなったオオジュリン20羽以上、ベニマシコ♂1羽、チョウゲンボウ1羽、その他ここは鳥が近く、アオジ、ホオジロ、コゲラなど多数（長嶋宏之）。

**宮代町東武動物公園** ◇3月11日、ダイサギ11羽、コサギ5羽、カワセミ1羽、オオバン4羽、ホシハジロ♂13羽♀2羽、キンクロハジロ♀1羽、カワウ多数、コブハクチョウの親2羽が子供1羽と泳いでいた（長嶋宏之）。

**白岡町西元荒川八幡橋下流** ◇3月12日、タシギ3羽、イソシギ2羽、イカルチドリ5羽、セグロセキレイ2羽、セグロカモメ1羽、ハシビロガモ♂3羽♀2羽その他コガモ、カルガモ、ムクドリ多数、コガモが水

溜りて足踏みしては採食を繰り返していた。3月27日、コガモ56羽、セグロカモメ1羽、ハシブトガラスと死んだ魚を取り合っていた。ユリカモメ6羽、タヒバリ2羽、ハシビロガモ7羽、コチドリ3羽、イソシギ2羽、ダイサギ2羽、コサギ2羽、カルガモ9羽、ツグミ3羽、メジロ2羽、ツバメ3羽、ハクセキレイ3羽、スズメ10羽（長嶋宏之）。

**白岡町彦兵衛** ◇3月15日、オオタカ1羽、チョウゲンボウ1羽、その他アオジ、カララヒワ、モズ、コゲラ、シメ、オナガ多数（長嶋宏之）。

**白岡町白岡** ◇3月27日、久伊豆神社の松の木にカラスが営巣。3月27日、ツバメ3羽、昨年の営巣場所付近を飛び回る。4月21日午前7時50分、ヒヨドリ50羽±北に向かう（長嶋宏之）。

**越谷市七左町** ◇3月26日、自宅前のイチョウの木にシメがとまって鳴いていた（小菅靖）。

**桶川市若宮** ◇3月26日午前6時50分、ラジオ体操のあと自宅近くの植栽にてアオジの初さえずりを聞く。涼しげな声で「チョッピーチョ、ピー、チリリ」などとさえずった。2羽いた。4月17日自宅ベランダでコジュケイの「チョットコイ……」を聞いた。近くの公園から来たのだろうか？ 久しぶり（立岩恒久）。

**伊奈町6丁目** ◇4月12日、ムナグロ5羽が採餌しているのを観察。4月20日、ムナグロ55羽、採餌したり飛び回るのを観察（森山宣子）。

**滑川町武蔵丘陵森林公園** ◇2月15日、山田大沼でオシドリ♀1羽、ハシビロガモ15羽、カルガモ100羽、その他マガモ、コガモなど多数。3月14日、オカヨシガモ♂4羽♀3羽、ハシビロガモ♂5羽♀5羽、ウグイス囀り、ガビチョウ。その他コガモ、カルガモ、カウウなど多数。4月16日、亜種アメリカコガモ♂1羽がずっとコガモ♀1羽に寄り添っている。この♀1羽は亜種アメ

リコガモの♀と思われる。コガモ♂13羽♀19羽、ハシビロガモ♂8羽♀5羽、カイツブリ6羽、ダイサギ1羽、アオサギ、カウウ多数（長嶋宏之）。

**狭山市稲荷山公園** ◇2月27日、ピンズイ（久保田忠資）。

**騎西町北緯36.08 東経139.57地点** ◇2月28日、アメリカヒドリ2羽、マガモ多数、ヒドリガモ多数、オナガガモ2羽、キンクロハジロ1羽（長嶋宏之）。

**騎西町境** ◇3月22日、アメリカヒドリ2羽、キンクロハジロ♀3羽、マガモ♂4羽♀2羽、ヒドリガモ多数（長嶋宏之）。

**吉見町八丁湖公園** ◇3月16日、亜種シベリアアオジ♂1羽。体色に緑色味が全くなく、淡褐色の背面に濃褐色の縦斑が筋状に目立つ。首から上は薄墨色の頭巾を被ったよう。一目で亜種アオジと違うことがわかった。本亜種は、旅鳥として主に日本海側で見られる。過去には埼玉県内（秋ヶ瀬？）での記録もあるように聞いているが…。なお、本亜種について、今出ている写真図鑑に「よい写真」はひとつもない。インターネットで検索して、たまに「これは」というのがあるくらいだ（榎本秀和）。

**本庄市ふるさとフラワーパーク** ◇4月1日午前9時30分頃、ツバメ1羽初認。満開のこぶしと桜の間を西から東へ飛び去る（町田好一郎）。

**狭山市入間川** ◇4月2日、支部定例探鳥会コースで亜種ホオジロハクセキレイ1羽（久保田忠資）。

**渡良瀬遊水地** ◇4月2日、鷹見台手前左奥の沼地でツルシギ2羽、エリマキシギ♂1羽。ちょっと夏羽が出てきていた（鈴木紀雄）。

#### 表紙の写真

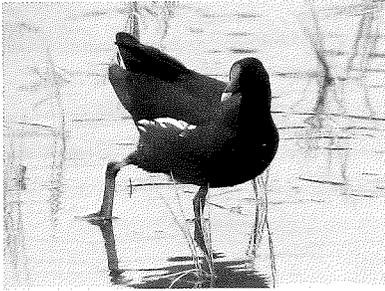
#### タカ目タカ科ハイタカ属ツミ

昨年6月、市内の公園に、自分でセミをとっている幼鳥がいました。

鶺鴒喜雄（深谷市）



## 行事案内



バン(編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちがあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。 持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

### 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月1日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス 8:31 発で「自然観察公園前」下車。  
担当：浅見、岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、長谷川

見どころ：ホトトギスの声を聞きましたか？ まだでしたら、ぜひこちらへ。姿を見るのは難しいですが、ここ石戸宿ならたっぷり聞けるはずです。オオヨシキリの伴奏つきです。スズメバチの活動が活発になる頃です。白っぽい帽子をお忘れなく。

### さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

#### <差間コース>

期日：6月1日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で、「念仏橋」下車。(バスの乗車場所、発車時間が変

更されました。)

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、工藤、若林、新井(勇)、赤堀、須崎、藤田(敏)

見どころ：梅雨入り前、緑が陽光に映えて美しい季節。オオヨシキリ、カッコウなどをじっくり観察できる季節でもあります。入梅前のひとときをお楽しみください。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月8日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅  
交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：榎本(秀)、森本、中里、大澤、倉崎、高橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鶴飼

見どころ：緑の葉を抜けてくるさわやかな風も初夏を告げています。カッコウを遠くに、オオヨシキリの合唱を近くに聞きながら、水辺で親子づれのカイツブリ、バンなどをそっと観察します。

### 茨城県・浮島湿原探鳥会(要予約)

期日：6月14日(土)

定員に達したので締め切りました。

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：6月15日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、舟木

見どころ：梅雨に入った見沼田んぼは緑一色。芝川も水量を増して流れ、オオヨシキリが元気に歌っています。カルガモやパンの雛が泳いで、命のつながりを教えてくれます。

### 『しらこぼと』袋づめの会

期日：6月21日（土）

時間：午後3時～4時ころ

会場：支部事務局108号室

道順：浦和駅西口から県庁通りを少し進み、三菱UFJ信託銀行角を左折、旭通り商店街を抜けて高層ビル角の信号を直進、次の変形三つ又真ん中の道を進んだ右側、5階建ての建物（プリムローズ岸町）。

### 坂戸市・高麗川探鳥会

期日：6月22日（日）

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越8:17→坂戸で越生線乗り換え8:42発。または寄居7:43→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR埼京線大宮7:34→川越で東武東上線乗り換え。

担当：山口、青山、久保田、志村、杉原、高草木、高橋（優）、林、藤掛、藤澤、増尾、持丸、山田（義）

見どころ：すっかり青葉も濃くなった高麗

川です。昨年はホトトギスが杉の木のとっぺんでさかんに鳴いてくれました。今年も期待しましょう。猛禽類もきつと飛んでくれます。

### 支部総会のご案内

日時：6月29日（日）

午後1時 受付開始

午後1時30分～2時 記念講演

午後2時～4時 総会

会場：さいたま市立浦和コミュニティーセンター（浦和駅東口すぐ前、パルコの建物）10階第13集会室

記念講演：「財団事務局で取り組んでいる会員拡大策」本部会員室会員グループチーフ齋藤英一郎氏

総会議題：平成19年度事業報告と決算報告、平成20年度事業計画案と予算案、平成20年度役員を選出。

参加資格：支部会員であればどなたでも参加できます。

支部の規約に基づいて昨年度の支部活動を振り返り今年度の予算や方針を決める大切な総会です。多数の方のご参加をお待ちしています。

総会後には、支部事務局内での懇親会も予定しています。



昨年の総会



## 行事報告

12月15日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：7名

新井浩、池田泰右、海老原教子、海老原美夫、佐久間博文、松村禎夫、百瀬修

12月16日(日) 加須市 加須はなさき公園

参加：60名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガモ チョウゲンボウ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 強風の中のスタート。風が吹けば桶屋が儲かるというが、鳥見はそうはいかず小鳥類がなかなか出ない。池にはカモ類がいたが種類は少ない。あせっているとすぐ近くにチョウゲンボウが出現。ホバリングもしてくれ、みんな大喜び。植物園ではジョウビタキも現れた。風はますます強くなる一方なのでコース途中で終了した。終了後リーダーのH氏のデジスコ講座を開催した。(青木正俊)

12月16日(日) さいたま市 三室地区

参加：54人 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ オオタカ バン ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 1年最後の探鳥会のテーマは「鳥を見られるしあわせ」とした。ゆっくりと快晴の見沼田んぼにオオタカが飛び、工事が終りに近付いた芝川に多くの種類のカモが泳いでいた。

子供たちの世代にもこの自然を残したい、忙しい人々に鳥を見る楽しさを味わって貰いたいと思った。(楠見邦博)

12月23日(日) 年末講演会

参加：77名 場所：埼玉会館

第1部では、「ビデオで振り返るこの1年」と題して、海老原美夫、手塚正義両会員の作品を上映。また、2008年から始まる関東ブロック協同シラコバト調査について、生息地域の概況を橋口普及部長から、調査概要を小荷田研究部長から解説。

第2部では、(財)日本野鳥の会評議員、野鳥研究家の松田道生氏=写真=をお招きした。「江戸の野鳥と自然の話」と題した、氏の近著である『大江戸花鳥風月名所めぐり』で使用された浮世絵や当時の本(観光案内)のスライドを見ながらの興味深いお話で、アツと言う間に1時間半が過ぎた。

その後、会場を移して希望者で松田氏を囲み、年末のひとときを過ごした。(橋口長和)



12月24日(月、休) 幸手市 宇和田公園

参加：30名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ トビ オオタカ ノスリ ハヤブサ チョウゲンボウ タシギ セグロカモメ シラコバト キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 強い風を避けて林の中を進む。先頭の目の前をシラコバトが横切っていく。最近では探鳥会で見る事が少なくなった。樹上ではシメが盛んに鳴いている。サザンカの花にはメジロが群れていた。土手に出ると対岸のヤナギの木にオオタカ、ノスリが止まっ

ていた。鳥合わせ直前にカワセミが出て、しめくくってくれた。(中里裕一)

1月3日(水、休) さいたま市 さぎ山記念公園

参加: 53名 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ  
コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ  
ハシビロガモ ホシハジロ オオタカ チョウゲンボウ  
クイナ バン オオバン ユリカモメ キジバト  
カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ  
セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ  
アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ  
メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ  
ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種)  
(番外: ドバト) 久しぶりにカワセミが何度も出現。  
雲ひとつない青空にオオタカが舞う。見沼自然公園内の池でクイナが出たりして、本物の鳥をたっぷり堪能した後、サンズイドリがブルーシートの上に乱立。暖かな野外懇親会、別名ホームレスパーティー。最後は柳生会長お得意の手締めをまねて、シャシャシャンシャン。(海老原美夫)

1月5日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 71名 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ  
コガモ オカヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ  
ホシハジロ キンクロハジロ オオタカ ハイタカ  
ノスリ コジュケイ バン オオバン キジバト  
アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ  
ヒヨドリ ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ  
ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ  
メジロ ホオジロ アオジ シメ スズメ  
ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) (番外:  
ガビチョウ) 本部の安西主任研究員に、森林公園探鳥会のPRをNHKラジオでして頂いたお蔭で、一般の方々が15名も参加。曇り空のスタートだったが、次第に青空に変わって、鳥見日和。落ち葉を踏みしめながら、林の中でキセキレイ、ルリビタキ、エナガを見た。カモ科8種、タカ科3種、ツグミ科3種等々が見られた。(藤掛保司)

1月6日(日) 千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園

参加: 55名 天気: 快晴

ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ

コサギ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ  
ハシビロガモ ホシハジロ スズガモ ビロードキンクロ  
ホオジロガモ ウミアイサ ミサゴ ハヤブサ  
オオバン ミヤコドリ ハジロコチドリ  
シロチドリ ダイゼン トウネン ハマシギ  
ミユビシギ イソシギ ダイシャクシギ セグロカモメ  
キジバト ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ  
ウグイス メジロ オオジュリン スズメ  
ムクドリ ハシブトガラス (36種) 快晴無風の中、  
沖にはスズガモの帯、浜にはハマシギの群れ。  
ミヤコドリもどっさり。珍鳥も出て、日本一の風景を楽しんだ。(杉本秀樹)

1月12日(土) 久喜市 久喜菖蒲公園

参加: 11名 天気: 小雨

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ マガモ  
カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ  
ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ  
クイナ バン オオバン キジバト カワセミ  
コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ ジョウビタキ  
ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ  
アオジ オオジュリン スズメ ムクドリ  
ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 小雨が降り始める悪条件の下、熱心な参加者に押されて予定のコースを完歩。トモエガモは残念ながら不在であったが、ヨシガモ、ミコアイサやカンムリカイツブリを見ることが出来た。また、なかなか姿を見ることが出来ないウグイスが何度も現れて、雨に感謝。(玉井正晴)

1月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 18名 天気: 晴

カワウ カルガモ オオタカ ハイタカ ノスリ  
キジバト ヒメアマツバメ アカゲラ コゲラ  
ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ  
ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ  
ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ  
クロジ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ  
ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 大変寒さも厳しく、強風の下、出発してすぐジョウビタキが出現。野鳥の森へ向かう途中では、ハイタカ、オオタカが上空を舞い、樹上で羽を休めるノスリの出現。最終地点の野鳥の森ではアカゲラ、ルリビタキ、クロジが姿を見せ、まずまずの2008年初回の探鳥会であった。(後藤康夫)

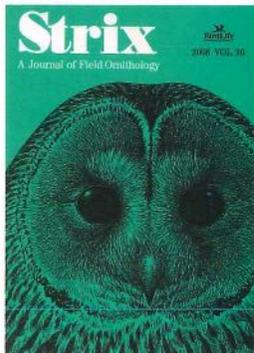
## 連絡帳

### ●『Strix Vol.26』発売

会員の調査研究活動を発表するため野鳥の会が年1回発行している論文集、『Strix』の第26巻(2008年版)が発刊されました。

今回は、埼玉県支部橋口長和・田邊八州雄・玉井正晴の論文「2000～2001年におけるシラコバトの分布と生息域」も掲載されています。

「Strix(ストリクス)」は、フクロウ属の属名。同誌は残念ながら、今後しばらく休刊になります。定価 4,200 円(税込み)。本部のオンラインショップでも購入できます。



### ●『渡良瀬 100 年』発売



幹事も紹介されています。

定価 1,890 円(税込み)のところ、埼玉県支

読売新聞宇都宮支局が 2006 年 6 月から翌年 9 月まで連載した記事をまとめ、加筆しました。渡良瀬に関わる人々を中心の本です。栃木県支部の多くの人たちや、当支部の内田孝男

部会員価格は 1,800 円(税込み)。渡良瀬遊水地探鳥会で販売します。

### ●会員数は

5 月 1 日現在 2,228 人です。

## 活動と予定

4 月 12 日(土) 5 月号校正(海老原美夫・大坂幸男・志村佐治・藤掛保司・山田義郎)。

4 月 20 日(日) 役員会(司会：山口芳邦、各部の報告・19 年度事業報告などの原案検討・『野鳥』誌 9 月号休刊による同封発送分の対応について・その他)。

4 月 21 日(月) 「支部報だけの会員」に向けて 5 月号を発送(倉林宗太郎)。

4 月 25 日(金) 本部会議室で開催された新制度対応検討委員会(第 3 回)に藤掛保司支部長と小林みどり幹事が支部から、橋口長和幹事が評議員として、傍聴出席。

### ●事務局の予定

6 月 7 日(土) 編集部・普及部・研究部会議。

6 月 14 日(土) 7 月号校正(午後 4 時から)。

6 月 15 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

6 月 21 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

## 編集後記

5 月 3 日連休初日。有志 9 人が事務局に集合して『しらこぼと』の創刊号から最新号までの大整理作業。目的は製本。そして国立国会図書館への納入。納入すれば永久保存される。これから原稿を依頼する時、「あなたの名前を国が永久保存してくれます」と枕詞に使おうかと思う。(山部)

我が家の近くの小さな遊水池に突然ゴイサギ、コサギのコロニーができた。決して良い環境とは思えないが、どこかを追われ、やむなく選んだ場所なのかなと思われる。鳥たちも住宅難なんだなあ。(山口)

しらこぼと 2008 年6月号(第 290 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>

編集部への原稿 [yamabezuku@hotmail.com](mailto:yamabezuku@hotmail.com) 野鳥情報 [toridayori@hotmail.com](mailto:toridayori@hotmail.com)

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。印刷 関東図書株式会社